

伊吹萃香(登録名:伊吹 スイカ)

能力：『萃（集まる）と疎（離れる）を操る程度の能力』『密度を操る程度の能力』

所属：正規軍(第5回大会～)、

博麗神社(第11回大会～第32回大会、正規軍を改名)

ARMS(第32回大会合流、第33回大会より始動)

ファイト・スタイル

失われた太古の不沈艦

多分酔拳。

初期では早々に打ち崩されて涙を流す姿も見受けられたが

経験を積むにつれて受けを理解したのか、異様にタフな試合を見せるようになった。

溢れる一人百万鬼夜行スタイルは無差別級登録選手の中ではもっとも小柄とも言われているのにも関わらず大爆発したらトップランカーすら圧倒することが出来る。

そのパワーを最大限生かした打撃技が多く、東プロパワー四天王の一角に数えられる。

夏フェスではその能力を一時解放して大型化し、文&花とのハンディキャップマッチを行った。

最近では必殺技・百万鬼夜行に磨きを掛ける一方、口調も次第に往年の名選手のフォロワーとなりつつある。

百万鬼夜行

萃香の使うリアット。彼女の代表的必殺技にして極め技。

バリエーションが多彩であり、ロープを利用した全力のオリジナル、

ダウンした相手を引き上げて頭を掴んだ状態での零距离（クローズライン）が現在の所知られている。

デビュー当時は比較的乱打傾向があり、必殺とまでは言えないものだったが、

現在ではこー一番で繰り出され、交通事故レベルの破壊力に変化。無差別級相手でも直撃すると一回転してしまう程。

第38回興行においては、幽香を東プロ初となる『立ち技の打撃による失神KO』に沈め、その破壊力を見せつけた。

（元々幽香は打たれ弱いという弱点を持つが、それを割り引いても余りある説得力だった）

オリジナルとしては往年の名選手スタン・ハンセンや、近年だとノア所属小橋建太が挙げられるが

他の技との組み合わせを見ていると前者の傾向が強い。

技名は、東方萃夢想や東方文花帖で使った最終奥義『「百万鬼夜行」』より。

萃香のフィニッシュホールドがリアットな由来は「萃香 酒 酔う うい～ スタン・ハンセン」から。。。な、はずがない。

ミッシング・パープルボム

カナディアンバックブリーカーの要領で相手を掴みロックしたまま叩き落してフォールに持ち込む。

オリジナルはフリーで元参議院議員大仁田厚のサンダーファイヤーパワーボム。

技名は、東方萃夢想他で使った『鬼神「ミッシングパープルパワー」』より。

アバランシュプレス

相手をブロックバスターの体勢で捕らえてから前方に倒れ込むことで相手に体を浴びせる技。

エクспロイダー

相手の右脇下に潜り込んで右腕を左肩から首に、左腕を右腿にかけた体勢で、後方に反りつつ投げ捨てる。

この技が出る時は『エええええエクспロイダー！』と叫ぶのがお約束。

オリジナルはNOAHの秋山準。

そのままでも受け身が取りづらい技だが、レミリアに対しトップロープからリング外へ落とす殺人的な高度で繰り出した（いわゆる断崖式）こともある。

酒霧

いつ含んでいたのかは不明だが、口から突然酒らしきものを噴出して相手の顔にかけてひるませる技(?)。何故緑色になっているのか、普段どこに隠してあるのか、そもそも騙し討ち嫌いの彼女がなぜこの技を愛用するのか、など極めて突っ込みどころ満載だが、気がつけば萃香の特徴的ムーブの一つとして認められている状態ではある。萃香が時々スタミナ切れで**乙る**原因の一つは、これを仕込んでいる事かもしれない。元祖は日本における怪奇系レスラーの草分け的存在であるザ・グレート・カブキ。さすがに主成分は酒ではないらしい。

サポーターを直す動作

技では無くアピールの一つだが、特徴的なムーブの一つなので是非記しておきたい。このアピールは本来ならば必殺のラリアットに行く前の予告なのだが、萃香は何故かロープを利用してラリアットを期待させつつショルダータックルを繰り出す。最早この「すかし」が快感になっているファンもいるらしく、このアピールも見所の一つである。

その他の使用技

肩車式フェイスバスター、アルゼンチンバックブリーカー、アイアンクロー、ダブルアームスープレックスなど。

戦績

[[部分編集](#)]

+ 全戦績 -ネタバレを含むので注意-

タイトル歴

LTW王座

第三代王者タッグ ([博麗霊夢](#))、防衛3回

LTU王座

暫定王者([博麗霊夢](#)・[アリス](#)・[マーガロイド](#))組
第三代王者([鈴仙](#)・[優曇華院](#)・[イナバ](#)・[メディスン](#)・[メランコリー](#))組

人間関係

- ▶ [霊夢](#)(正規軍時代から盟友だったが、[inanimate](#)事件にて追放される)
- ▶ [魔理沙](#)(元正規軍メンバー。一時「スイマリ」タッグを組むも離脱時に裏切られ、トラウマが出来てしまっている)
- ▶ [アリス](#)、[メディ](#)、[鈴仙](#)(博麗神社分解後に新グループを結成。鈴仙、メディと組んで[LTU](#)王者に)

入場曲

御伽の国の鬼が島 ~ Missing Power : ~ 第24回大会

碎月 : 第25回大会

碎月 (東方緋想天バージョン) : 第26回大会 ~ 現在

評

[\[部分編集\]](#)

正直者の鬼 第5回～第30回大会

初登場は第5回大会美鈴五番勝負4発目から。

先の戦いで大金星を上げて波に乗りたい美鈴に対して強引に押し切る。

その後正規軍に合流しリングに立つが、初戦からの問題点であった酒切れによるスタミナ不足や

相手のダメージを受けすぎてしまう事への懸念が多くみられ敗北直後に『萃香乙』という野次が飛びかかってしまうこともあった。

そんな萃香に早いうちに目をつけたのが『プロレスはパワーだ』を信条に置く魔理沙。

こうして結成されたスイマリタッグはパワー&パワーの相乗効果で順調に進むかと思われたが、

ふとしたことから喧嘩別れになってしまい、さらにその直後に魔理沙本人が、

アリスとのタッグ問題を抱えながらの紅魔館へ移籍。

敗北による野次以上に、お互い高めあっていたと思っていた相手に裏切られたことが、トラウマになってしまう。

もっとも、当時はそれ以上にマリアリの遺恨関係がクローズアップされており、萃香の胸の内を知るものは

霊夢くらいしかいなかったとみられる。

以降は正規軍改め博麗神社中心メンバーとして積極的に参戦。

タッグ・ユニット・イベントマッチと積極的に試合経験を積むも、

過去の戦績とシングル実績が無いためLSWへの挑戦を明言するのは避けていた。

一步一步実力を高め、LSW準優勝経験があり、団体のトップランカーであるレミリアをタッグで撃破した事に勢いづき

LTWへの挑戦を霊夢と共に表明。

奇しくも相手は、かつて魔理沙とのスイマリを組んでLTW挑戦権を賭けて戦った相手であり、

スイマリを破った勢いでそのまま王座に君臨したもこけーねこと慧音と妹紅タッグ。

トラウマを和らげる為と、自身の更なる飛躍のためには避けては通れぬ試合となった。

その試合はGW特番メインカードとして非常に注目を集め、

時は紅魔館（第二期、後のO.D.S.）の横暴とそれに対する動きが強まっていた中での貴重なクリーンカードであった。

試合に勝利しLTW第三代王者ベルトを手にしたものの、萃香は当試合での自身の出来に満足せずこれからも精進することを宣言した。

その後、LTW王座防衛を果たした所で、自身に区切りをつけるためLSWへの挑戦を表明。

シングル経験が少ない中での表明に驚きと期待が高まった。

迎えたLSW第三代王者レミリアは初代LTW王者でもあり、三代目のLTWタイトルホルダーとして直接倒したい相手であった。

試合内容は熾烈を超越し、全力を出し切るがためにもはや殺人試合になってしまい

るこまでしたければならないのか、という息を迫る試合展開をみせるも無念の敗北

[+](#) 鬼の目の涙と再燃 第31回大会 ~

[+](#) 鬼の弱点

[このページを編集](#)